

元気な子どもがいっぱいの千葉

千葉市は子どもたちが元気に成長できるまちでしょうか？
お母さんが安心して子育てできるまちでしょうか？
今後地域はどう子育てに関わっていくべきでしょうか？



たばた直子さんとボースカウトのみんな

たばた直子さんの子育ては初めて暮らす土地ではじまりました。かかりつけの病院・子どもの遊べる公園・お友達の集うところ・・・わからないことだらけの中、歩いて探して子育てをしていました。その後、引っ越してきた千葉。自分が幼いころ育った街ではありますが、病院探しも仲間作りももう一度初めから。一人っ子だからもっと親子でいろんな人と関わりたいという思いから地域のボースカウト活動に参加することにしました。幼稚園生から高校生までの子どもたちとその活動を支える保護者たち。世代も男女も関係なく、野外活動を通じて一つの仲間になる喜びを知りました。また子どもたちが親以外の大人から教えられ、怒られ、認めてもらう・・・地域で育ててもらふことの大切さを学びました。なんでも打ち明けられる仲間ができたので、視野が広がりおおらかな気持ちで子育てできるようになりました。子育てしていると迷うこと・悩むことの連続ですが、地域や仲間の支えで居心地の良い場所があると不安は少なくなります。子育てには地域の手助けが必要だと強く感じたそうです。子育てを通じて見る地域はそれまでの見方とずいぶん異なります。子どもにとって安全な街かな？教育環境は良いかな？仕事をしながら子育てしやすい街かな？大切な子ども時代を過ごす街だから私たち親は環境を整えたい。千葉市をもっと子育てしやすい街にしていきたいというのがたばた直子さんの思いです。

地域で支え合う子育て

長引く景気低迷も影響し伴働き家庭が増えています。しかし、保育園の待機児童問題は未だに解決していません。小学生は放課後どこに行ったらよいのでしょうか。
少子高齢社会を迎える中で、これからは子育ても地域社

会が支える仕組みが必要です。
美浜区には日本を代表する音楽家や学者、経済界で活躍している方々が住んでいます。また、活発なボランティアグループがあり、元気な高齢者がたくさんいます。これらの力を結集することで、よりよい子育て環境を作ることができると思います。わくわくキャンパスの充実や地域ボランティア活動に子どもたちが参加しやすい仕組みづくり、子育て経験談を聞くことのできる先輩母親との交流会など、地域が協力できることはたくさんあります。これからはそういった地域の力を引き出す仕組み作りが大切です。
日本は他の先進国に比べて子育て支援にかけている予算が少ないことをご存知でしょうか。特に5歳以下の子どもへの支援額が非常に低いとOECDから指摘を受けたことがあります。その様な背景のもとでできたのが「子ども手当」の制度ですが、お金だけでない新たな支援策を地域と一緒に考えて行く必要があります。

たばた直子後援会事務所

〒261-0011 千葉市美浜区真砂5-44-13
真砂中央ショッピングセンター内
TEL: 043-216-3861, FAX: 043-216-3891
E-mail: info@tabatanaoko.com



市民講演会

子育てと地域の役割

講師 林久美子 文部科学大臣政務官
講師 田嶋 要 経済産業大臣政務官

日時: 3月21日(月曜日・春分の日)

15時から17時まで

場所: 真砂コミュニティセンター 4階 講習室
定員: 先着80名 (要予約)
連絡先: たばた直子後援会事務所



出産



出産前も後も母親が孤独や不安、悩みに追いつめられることのないような仕組みが必要です。母親一人ではなく父親、地域、子育て仲間、行政と一緒に育児に参加して情報共有ができるオープンな育児環境を作ることが大切です。例えば先輩母親との交流会や携帯電話メールでの子育て情報配信、育児相談窓口の充実などです。

いま、不妊治療を受ける夫婦が増えていることをご存知ですか？体外受精などの不妊治療には高額の治療費が必要です。そのため千葉県には特定不妊治療助成制度があり、平成19年度は331人、20年度は413人、21年は547人と毎年利用者数が増えています。この制度は特定医療機関でのみ利用可能であり、残念ながら美浜区にはこの医療機関が存在しません。実際に不妊症で悩んでいる方に不妊治療の知識を深めてもらい、産婦人科に行きやすい環境を作ることが大切です。

保育所・幼稚園



幼稚園・保育所に関して千葉市が抱えている大きな問題として、保育所の待機児童問題、こども園設立問題、保育所の民営化問題などがあります。これらの問題に対する対策は児童の家族や園とよく話をしながら進めなければなりません。子どもたちが犠牲にならないように一刻も早く解決すべき問題です。子どもたちはどんな環境の家庭に生まれても一定以上の保育・教育環境が保障されるべきです。その水準が何なのか、それを維持するために何をすべきか、子どものことを第一にして考えていくべきです。

ここでは保育所の待機児童問題に関して少し詳しく説明します。平成23年1月時点での千葉市の待機児童数は847人です。前年度よりも低下していますが、まだまだ多いです。問題は今後ますます入所希望者が増加する可能性があることです。千葉市は「アクションプラン2010」を策定し、定員変更や幼稚園の活用などにより平成29年時点での待機児童解消を目指しています。平成25年までに2429人が新たに入所できることになっています。待機児童解消時期を早めることができないか更なる努力をする必要があります。

保育所(園)の待機児童数

	入所児童数		待機児童数		保育園数	
	全市	美浜	全市	美浜	全市	美浜
H23・1	11,894	2,588	847 (743)	155 (143)	105	21
H22・3	11,412	2,521	1,035 (808)	222 (200)	99	20

カッコ内の数値は3歳未満の児童数

出典:千葉市資料

待機児童解消に向けたアクションプラン2010

	22年度	23年度	24年度	25年度	計
増員予定数	449人	540人	670人	770人	2429人
待機児童数予測	153 (H23.4)	140 (H24.4)	119 (H25.4)	96 (H26.4)	-

出典:千葉市資料

学校



学校教育に関してはもっと地域の力を活用すべきです。放課後子どもたちが安全に学び遊べるように、学童保育の高学年までの受け入れや、わくわくキャンパスの充実、部活動の顧問に地域の方がなるなど、学校に地域の力が流れ込むような仕組み作りが必要です。子どもの親が中心にやるもの他に、地域が中心になってやるものが増えたいと思います。

今、美浜区が直面している学校の統廃合問題について少し詳しく説明します。子どもの減少に伴って一学年にクラスしかない学校がたくさんあります。学校は基礎学力を身につけるだけでなく、色々な子どもたちと一緒に生活することで社会性を学ぶ場でもあります。人数が足りなくて部活動ができない学校も出てきています。千葉市は1校あたり12~24学級くらいが適正規模と考えていますが、美浜区では半数以上の学校がそれを満たしていません。6小学校と2中学校がこの春統合しますが、まだ多くの学校が小規模校のままとなっています。このような問題は簡単に解決できるものではありませんが、子どもの人生は一度きりなので、できるだけ迅速に対応すべき課題だと思っています。

平成25年度推計で12学級未満となる小規模学校

